

時間距離の短縮がもたらす 秋田の未来

令和8年7月2日

浜岡秀勝(秋田大学)

自己紹介

- 九州生まれ九州育ち、大学から東京生活
- 2001年に秋田大へ赴任(25年目)
 - 今でも冬の雪は大好き
- 秋田に来て、食べ物の美味しさを実感
 - おいしさのあまり、初めの3年間は毎年5kg太りました
- 加えて、地域の文化がしっかりと残されていて、継承されている
 - どこにも、夏祭り・冬まつりがある
 - 秋田の地理的な特性？

最近の秋田の話題

- クマ出没による生活への影響
- 人口問題
 - 最も高い減少率
 - 出生率も低い
- 少子化問題
- 高齢化問題

秋田大敷地内にクマ 25日午前、体長約1メートル

2025年10月25日 13時59分 掲載

25日午前11時10分ごろ、秋田市手形学園町の秋田大学敷地内にクマ（体長約1メートル）がいるのを、同市の40代男性が目撃した。

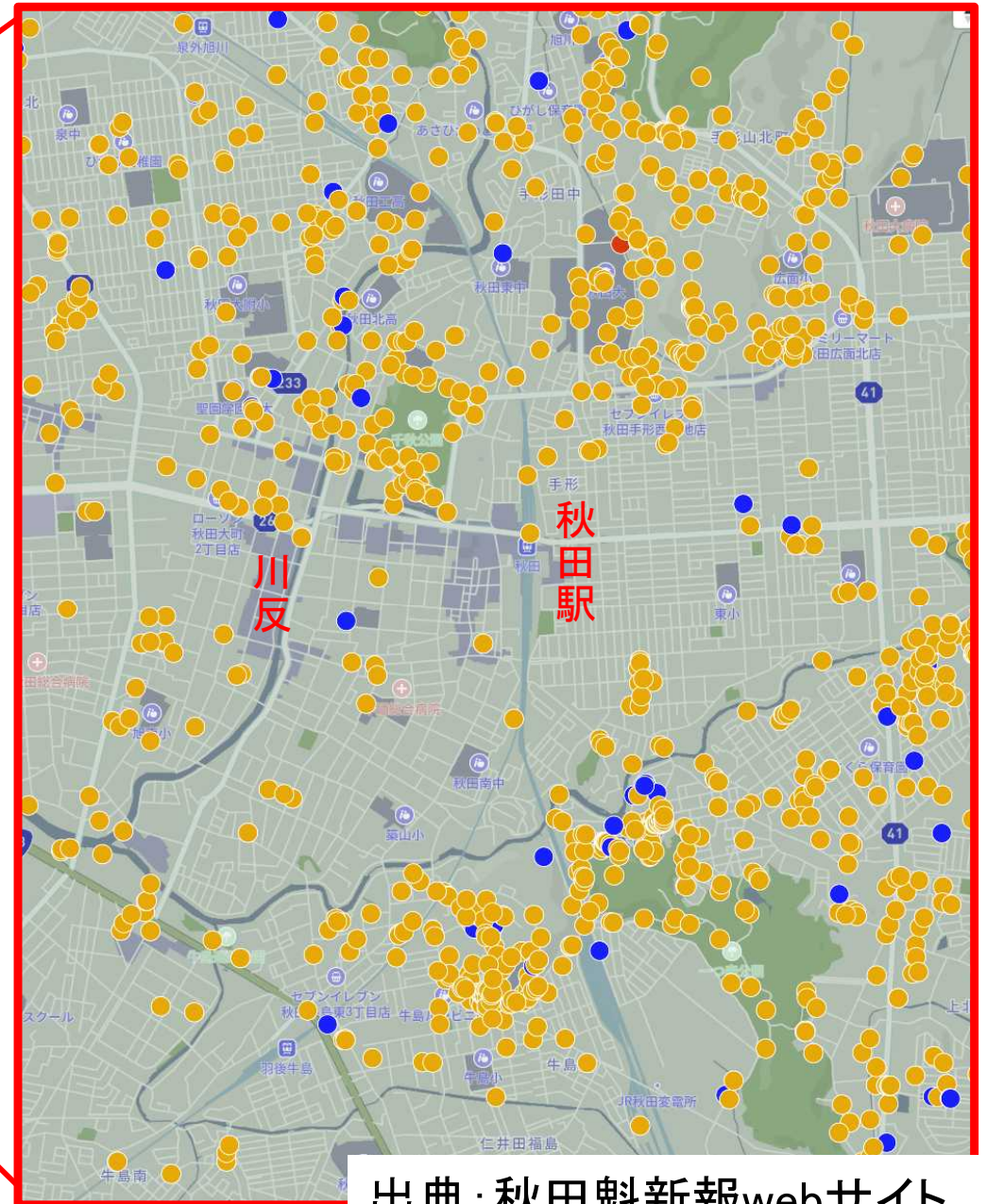
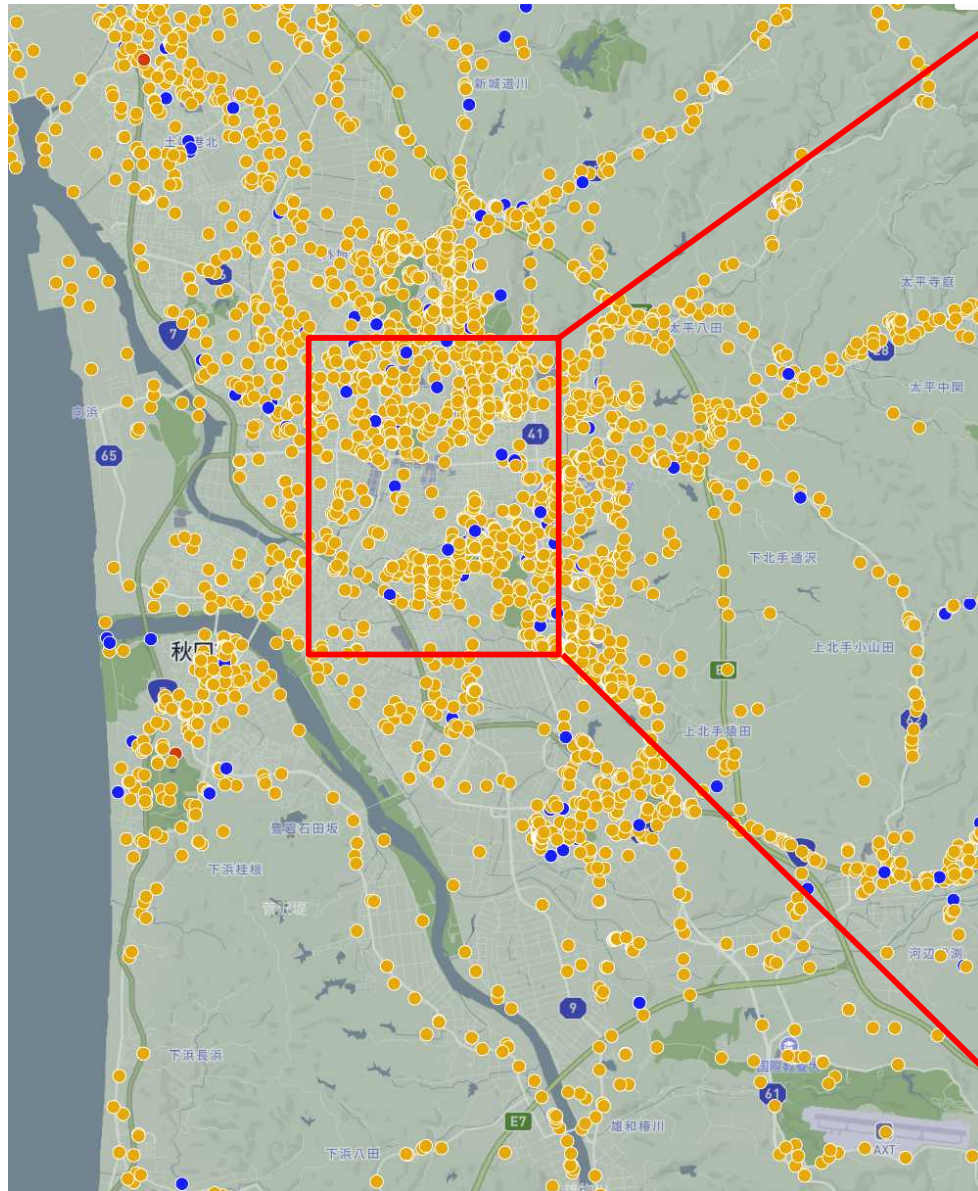
秋田東署が関係機関に連絡し、パトカーで付近を警戒広報して住民らへ注意を呼び掛けている。

◆各地で目撃多数 秋田のクマ出没マップ◆

※写真クリックで拡大表示します

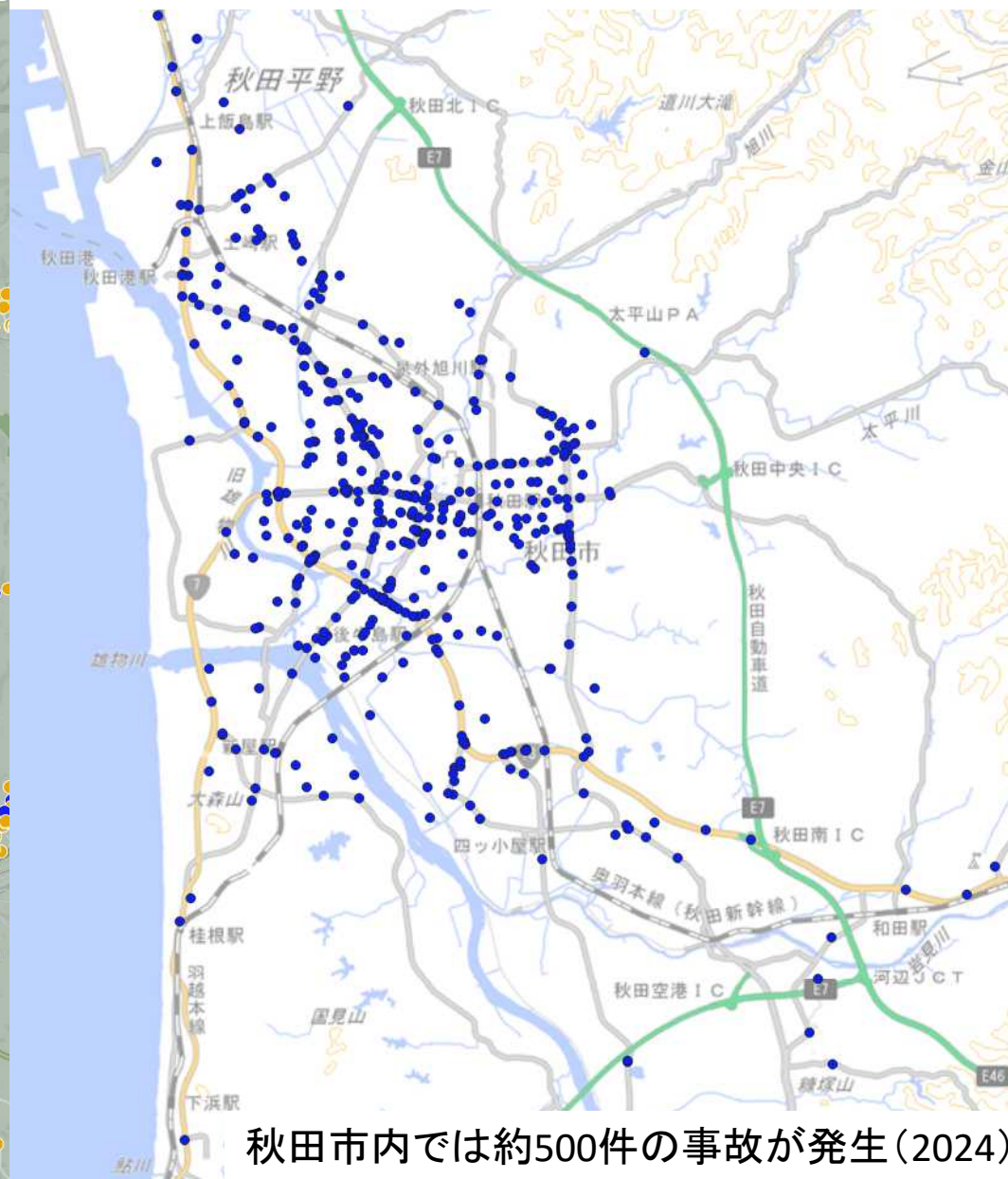
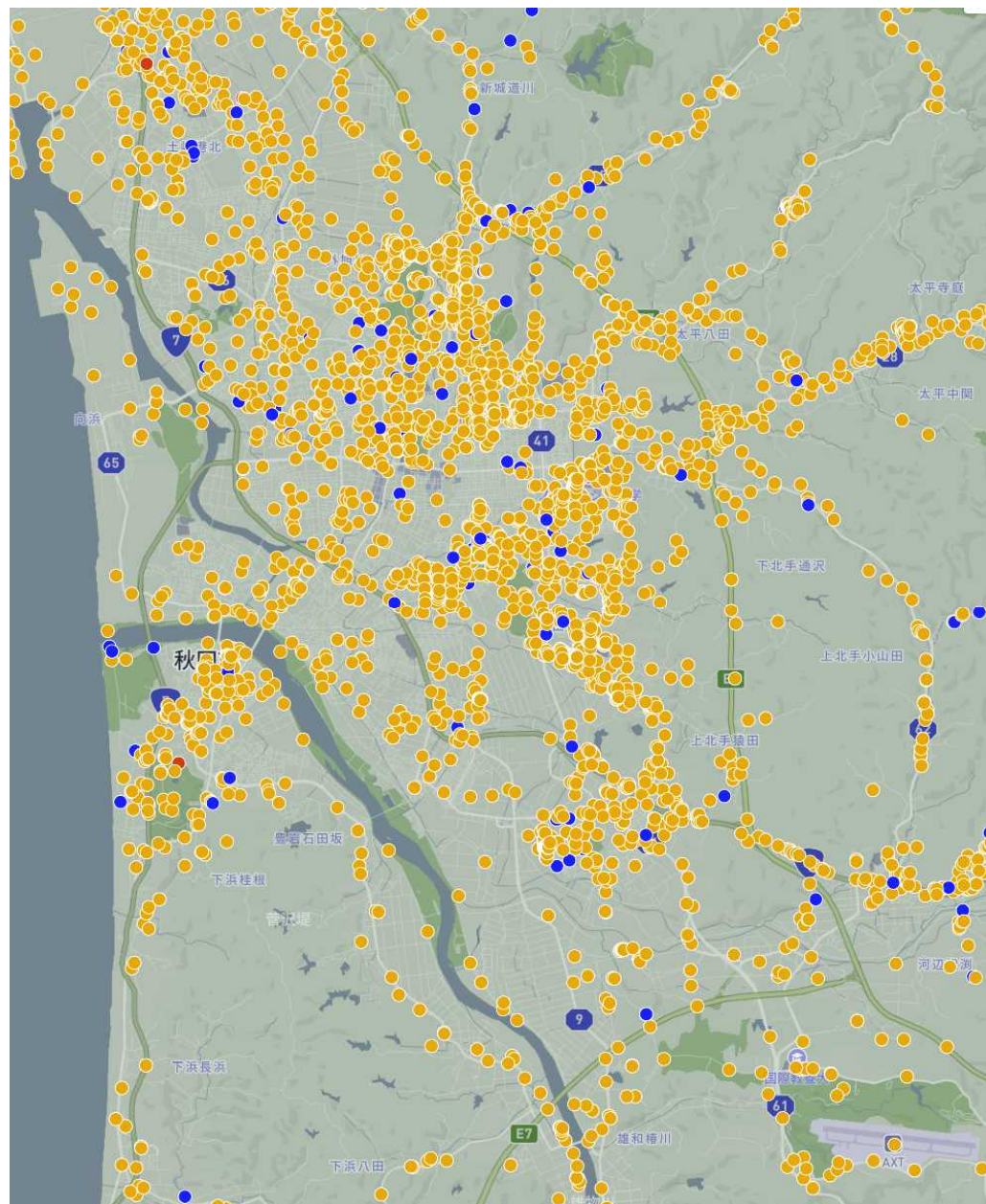


秋田市のクマ出没マップ(2025)

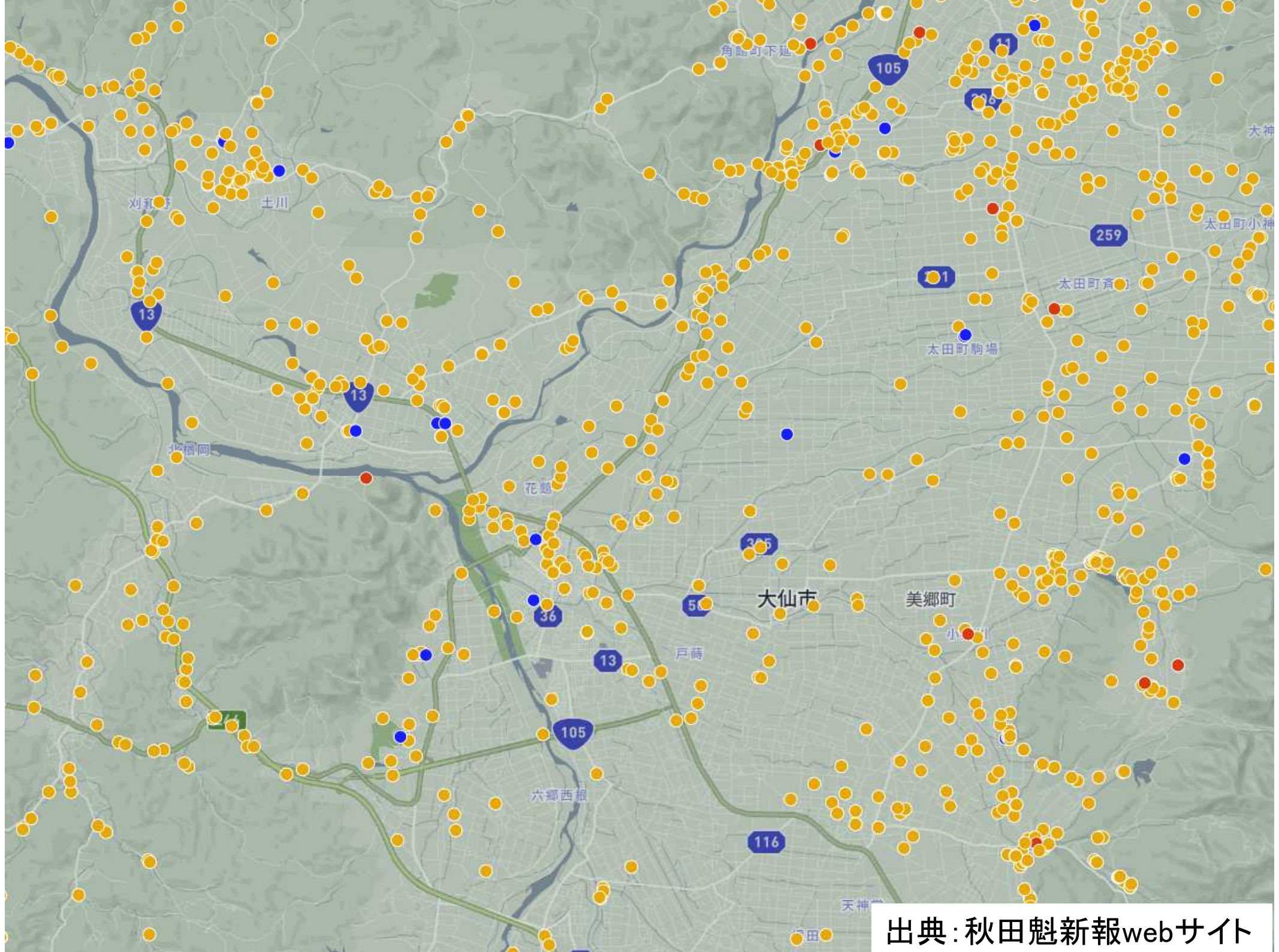


出典: 秋田魁新報webサイト

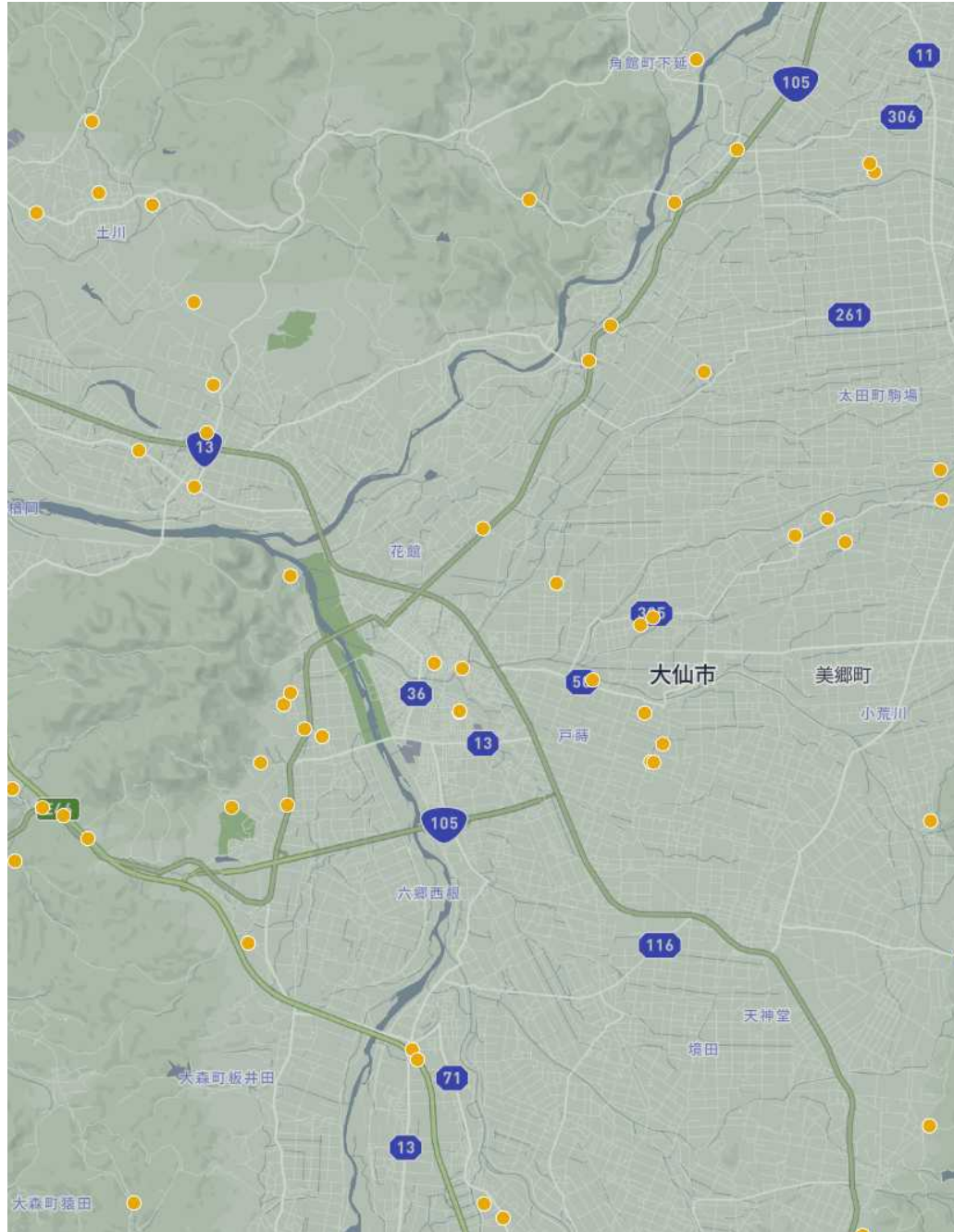
事故発生状況と比較



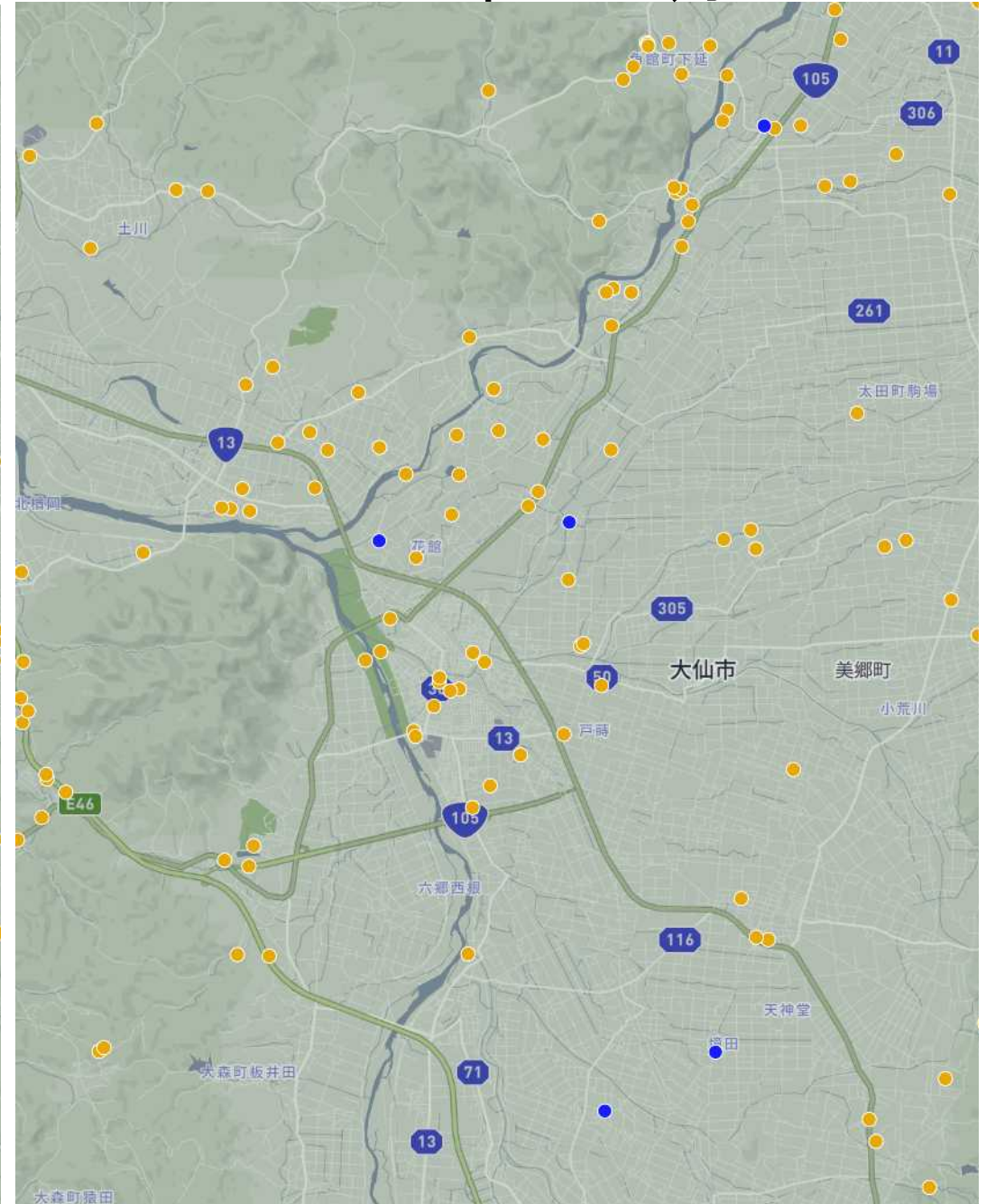
秋田市内では約500件の事故が発生(2024)



2025年4～6月



2026年4～6月



出典:秋田魁新報webサイト

最近の秋田の話題

- クマ出没による生活への影響
- 人口問題
 - 最も高い減少率
 - 出生率も低い
- 少子化問題
- 高齢化問題

秋田県の人口減少率 8・1%、6回連続で全国最大 2025年国勢調査【一覧あり】

2026年5月29日 9時13分 掲載 2026年5月29日 17時10分 更新 会員限定記事

総務省が公表した国勢調査速報値によると、2025年10月1日時点の秋田県の人口は、88万2100人で全国39番目だった。20年の前回調査より7万7402人減り、減少率は過去最大の8・1%だった。

25年の人口は45道府県で前回と比べ減少した。本県の減少率は6回連続で全国最大。次いで青森県の7・9%、岩手県などの7・0%だった。

※写真クリックで拡大表示します

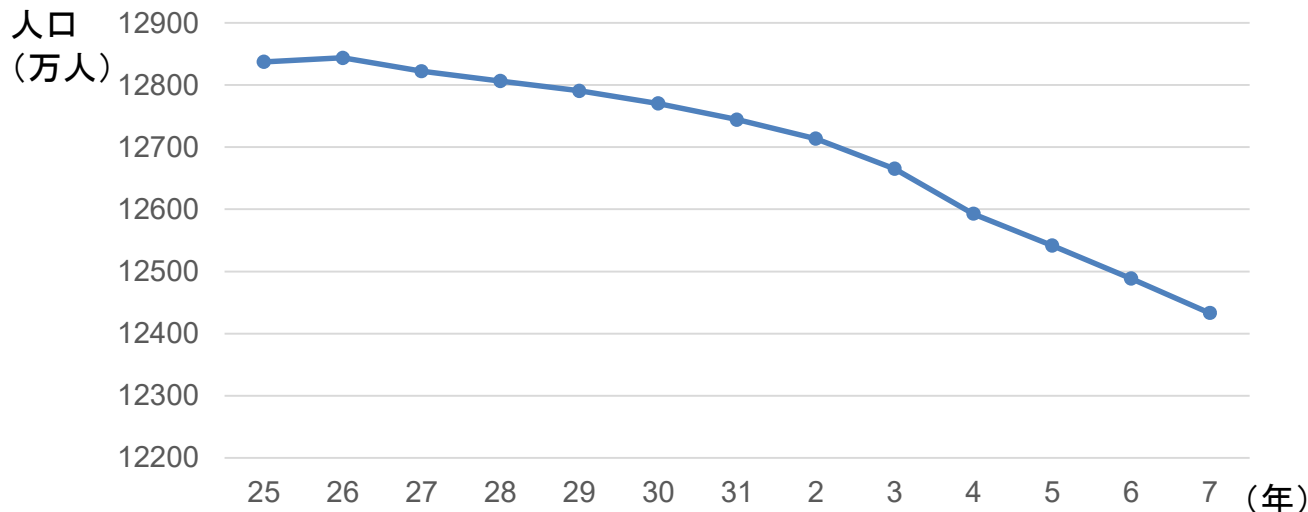
秋田県内市町村の人口と5年間の減少率
総務省・2025年国勢調査の速報値（%）

市町村	人口	減少率
秋田市	293588	-4.6
能代市	45494	-9.0
横手市	27559	-9.3
大館市	63256	-8.6
羽後市	21600	-14.1
湯沢市	37448	-11.0
鹿角市	25640	-11.9
山形県庄市	69212	-7.4
東上市	30257	-4.6
大仙市	71092	-8.5
北秋田市	26459	-12.4
にかほ市	21181	-9.6
仙北市	21666	-12.0
小坂町	4213	-11.8
上小阿仁村	1705	-17.4
雄物町	2525	-12.8

出典：秋田魁新報webサイト

現在の人口動態(2025.1.1)

- 全国で0.44%の人口減少(1億2433万人)
 - 人口減少率が1.5%を超えたのは4県
 - 秋田(1.84%)、青森(1.64%)、高知(1.59%)、岩手(1.57%)
 - 人口増加は、東京(0.65%)、千葉(0.02%)のみ

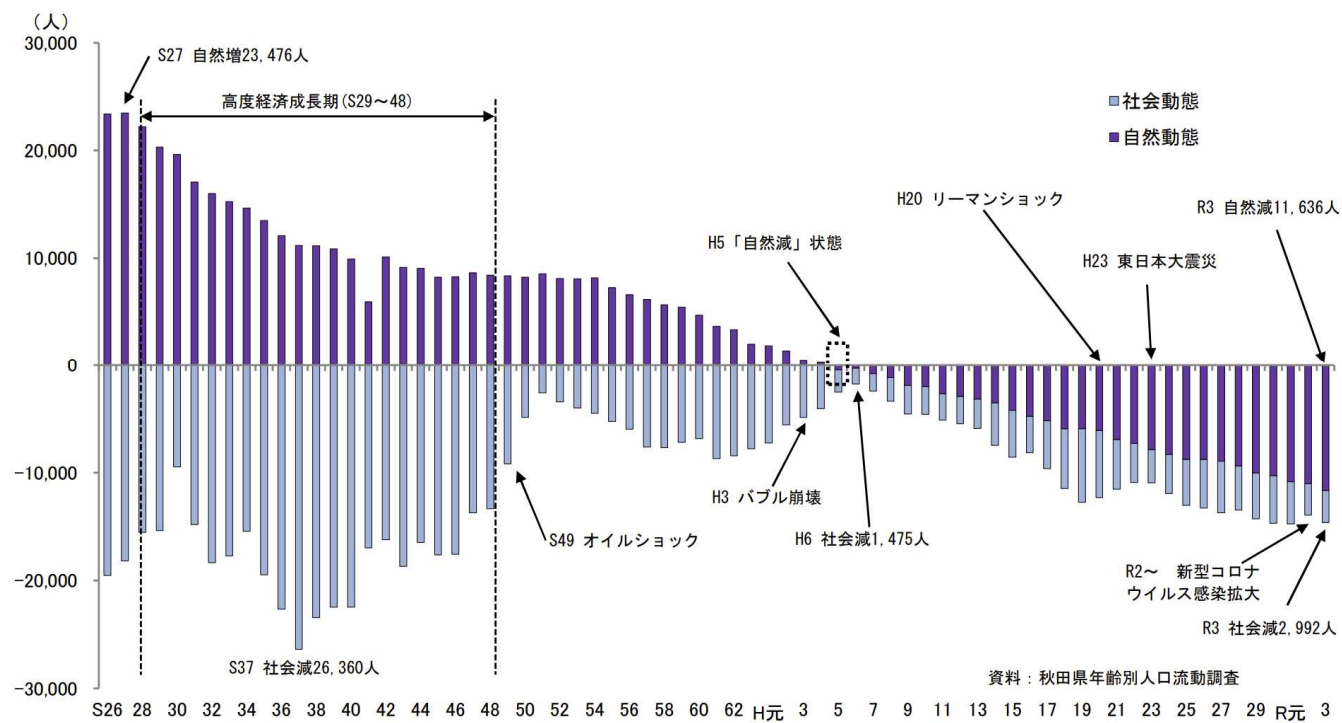


日本の人口の推移(住民基本台帳データより)



出典：NHK webサイト

- 低い合計特殊出生率(全国平均1.14)
 - 東京(0.96)、北海道(1.00)、宮城(1.00)、京都(1.03)、**秋田**(1.05)、神奈川(1.05)
- 秋田県の人口変化(自然増減、社会増減)



出典：秋田県人口ビジョン

- 自然動態と社会動態の減少率

- 自然動態が多く減少する県

- 秋田 (1.53%)、青森 (1.28%)、岩手 (1.26%)、高知 (1.23%)、山形 (1.18%)

- 社会動態が多く減少する県

- 青森 (0.37%)、高知 (0.36%)、秋田 (0.32%)、岩手 (0.32%)、山形 (0.30%)

- 秋田の特徴

- 自然減(出生数－死亡数)のみならず社会減(県内流入－県外流出)も顕著

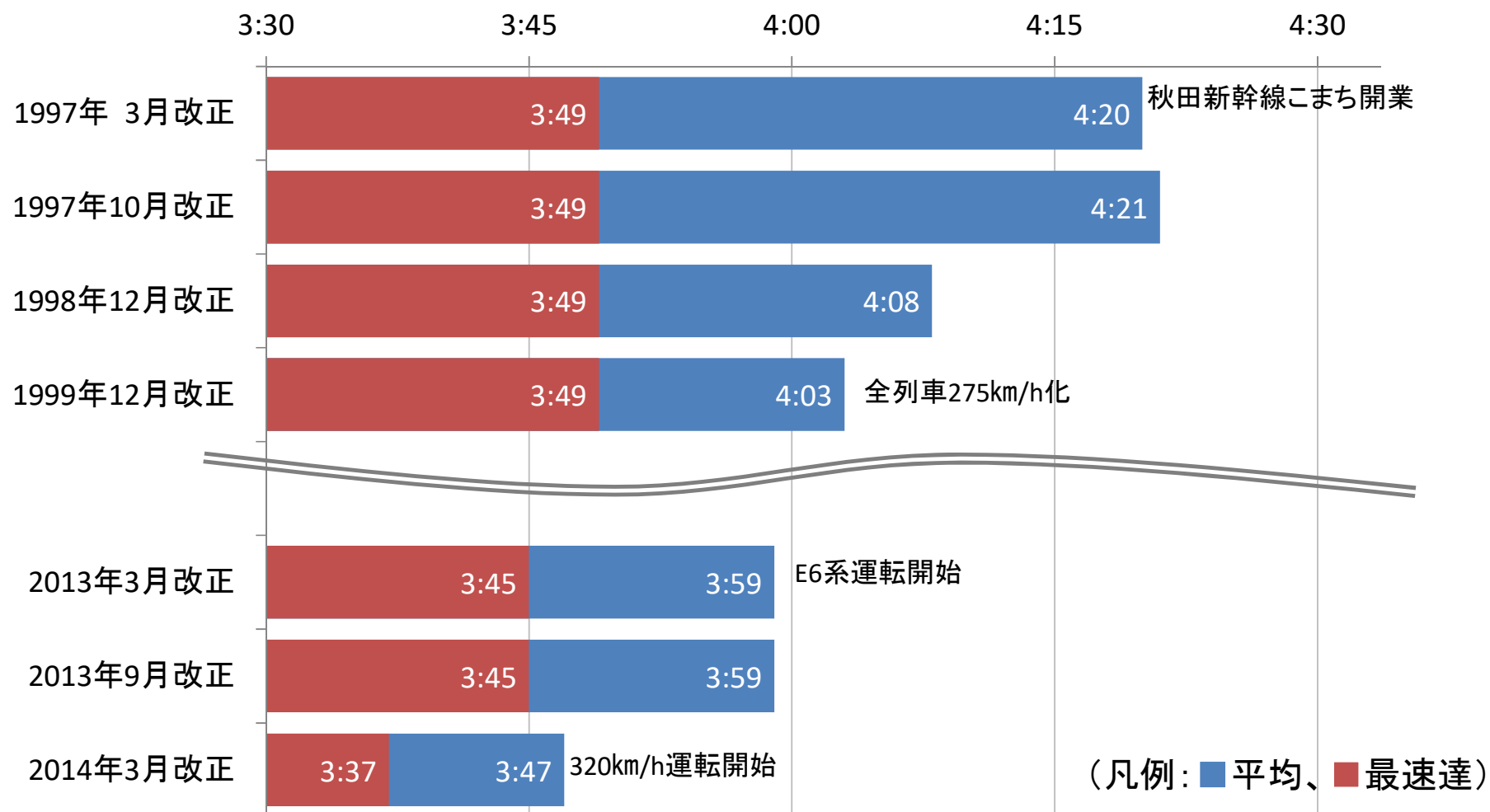
- 県外に流出した秋田県出身者が地元へUターンできる地域づくりが重要

人口減少と交通の関係

- 人口の減少にあわせて、国土面積は減少？
 - 大曲と秋田の距離が年々近くなる？
 - 「人口密度が一定」とのルールがあるわけない
- すなわち、移動距離に変化なし
 - 逆に、遠距離移動の頻度は増加する可能性
 - 生活圏の人口減少に伴う、拠点位置の変化
 - 運動場、イベント会場、高度医療施設
 - 日常生活でのスーパーや病院をイメージ
 - このとき、遠距離移動をとりやめるか？
 - 生活水準低下のおそれ
- 長い移動距離をいかに安全・快適に移動するか

こまちの所要時間変化

- 継続的にスピードアップへの取り組みを実施



こまち開業による効果

- 乗り換えなしで現地へ行けるため、所要時間の短縮以上に「近さ」を感じる
 - － 乗り換えなしのメリット
 - 羽田空港－成田空港間のアクセス
 - 鉄道vsリムジンバス
- 観光入り込み客数の変化
 - － 角館 1.5倍
 - － 田沢湖 1.2倍
 - － 大曲 1.1倍
 - － 男鹿 1.2倍

（平成12年度秋田県観光統計をもとに計算）

こまちの利用割合

- 開業直後にJRが利用割合を拡大、それ以降は大きな変化なく安定的
 - うまく共存
 - JRの利用率: 56%
 - 飛行機の利用率: 40%
- お互い現状のまま何もしなくて良い訳ではない
 - 継続的に時間短縮などサービス向上の試み
 - 現状に甘んじていて何もしてないと、後に大きな痛手となることに
 - ゆでガエル(熱いお湯に入れる、常温の水を温める)

現状の課題

- 所要時間短縮への期待
 - 東北地方の中で最も時間のかかる県庁所在地
- 悪天候時の安定運行
 - 気象条件による遅延、ひいては運休
 - H18豪雪のときは終日運休
- 近年の激甚化する気象をふまえると、安定化に向けた種々の対策が求められる

- 天候が原因とはいえ、できるだけ規制(運休)のないサービスが重要
 - ビジネスにおいては重要項目
 - 翌日の打合せにおいて、前泊するかor当日の朝移動するか？
 - 当日に移動できるならば、前日の時間を有効に使える
 - 忙しい(スケジュールが密な)人ほど安定運行を重視
 - 観光においても同様
 - 限られた時間であるため、運行停止は全体スケジュールに悪影響を及ぼす
 - ひいては、観光目的地として考えられなくなることも

自然災害への対策

- 多く発生する自然災害
 - 土木技術は着実に進化しているが、度重なる（そして過去最大の）自然災害には太刀打ちできない
 - 個別の状況をみると過去最高の更新が多いものの、年平均でみると大きな変化ではない。極端化
- 災害防止への取り組みは、過去から継続的に実施しているが、それを上回る規模にて発生
- 自然災害への対策
 - 災害が発生しないようにする
 - 土砂・雪災害を軽減するための治山事業
 - 災害が発生しても被害が大きくならないようする
 - 雪崩防止柵

新仙岩トンネルの整備

- 岩手・秋田県境にトンネル新設を含む新しいルート
- 赤湊―田沢湖間の18.1kmが対象
 - ― 厳しい地形環境のもと、山あいを縫って走行
 - ― 現状では悪天候による影響を多く受ける
- 防災上の大きな効果
- 数分の時間短縮効果



(岩手日報HP)

新仙岩トンネルのもたらす効果

- 時間短縮

- 7分の短縮により秋田から東京へは最速3時間30分
- 「3時間30分」となることの意味
- 大曲から東京へは3時間を下回る
- 東京のみならず、仙台・大宮など他都市・地域に対してもメリットあり(効果は日本全国へ広く波及)

- 悪天候時であっても安定した運行

- 運行停止の多くを改善可能
- 利用者心理の改善効果
- 高規格なものほど確実性を高める必要あり

時間短縮によるメリット

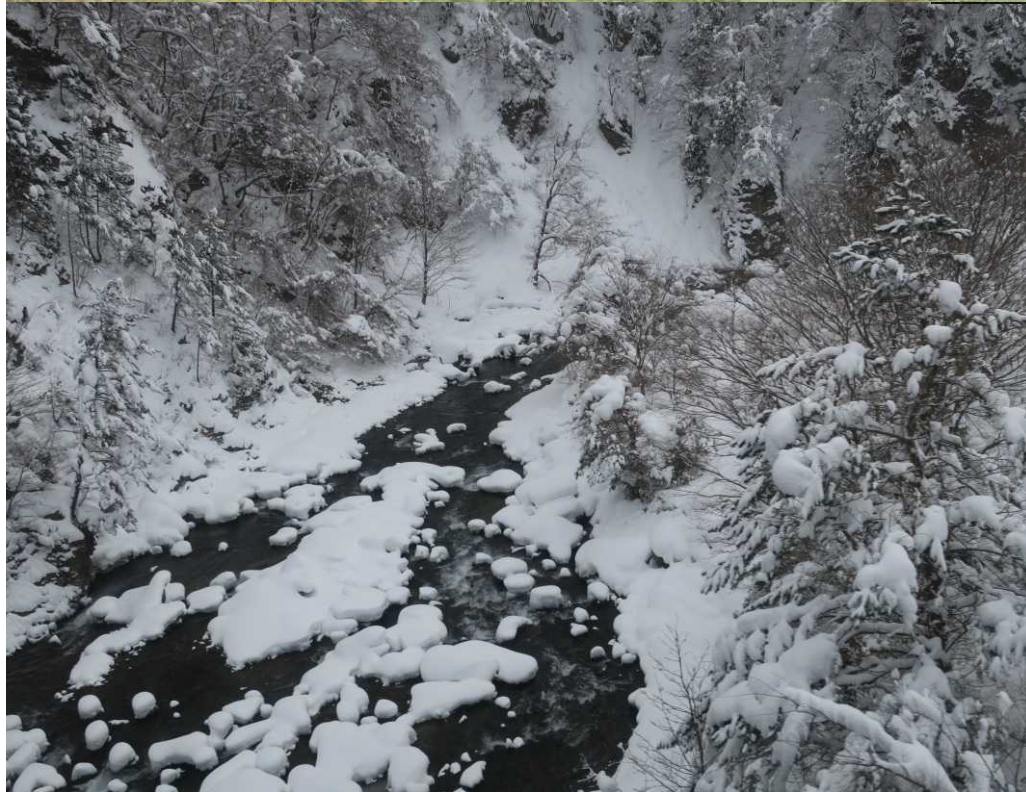
- 往復で約15分の短縮と考えると、かなり大きい
 - 心理的な近接性の向上
 - ビジネスへの良い影響
 - 交流人口増加への期待
- 行動可能圏域・時間の拡大
 - 時間制約による不便さの解消
 - 学会・コンベンション等にもプラスの効果
- 2次アクセスも同時に再確認を

観光へのメリット

- 秋田は夏・冬ともに多くの祭りがある
 - 日本の中で最多では？
 - 地域固有の文化が根付いている
- 一方で、この時期に多くの自然災害が発生
 - これまでは、その影響を受けることも
 - 影響を受けづらいことも加えてアピール可能
 - 多くの魅力ある地域を確実性をもって周遊できるルートづくりが可能に

複数路線になることのメリット

- 災害時のバックアップ路線
 - 地域間の移動をとめない
- 景観の良い旧ルートと、速達性の高いルートとわけて利用可能
- 仙岩峠の景色はとても素晴らしい
 - 速度を落として走行するのはサービス？



京都の嵯峨野観光鉄道

- JR山陰線の新線切り替えのため廃止された旧線を観光専用鉄道として利用
- 利用者数: 69万人(初年度、予想の3倍)
- 全長: 7.3km
- 駅数: 4駅



(写真: 嵯峨野観光鉄道HP)

複数路線になることのメリット

- 災害時のバックアップ路線
 - 地域間の移動をとめない
- 景観の良い旧ルートと、速達性の高いルートとわけて利用可能
- 仙岩峠の景色はとても素晴らしい
 - 速度を落として走行するのはサービス？
- 旧道を歩くのもよい
 - 仙岩峠：道路も変化してきた
 - 国見峠（歩行）から、馬車道を経て、昭和初期に仙岩道路が開通
 - 自動車で行けるも、険しいつづら折りの道（仙岩道路）
 - 昭和後期には、これらを回避した仙岩トンネル（道路）へ
 - 過去のルートは観光道路にもなる可能性

国見峠・仙岩峠の略図



(wikipediaより)

(岩手河川国道事務所HP)

時代とともに進化した土木構造物

- 宇津ノ谷峠(静岡)～国道1号
 - － 明治、大正、昭和、平成と異なるトンネル整備
- 鈴鹿峠(三重・滋賀)～国道1号
 - － 東海道(歩行)から、大正トンネル、平成トンネル(大正トンネルをベースに拡幅)、新トンネル(別線)
- 栗子峠(福島・山形)～国道13号
 - － 万世大路、明治トンネル(栗子隧道; 当時日本最長)、昭和トンネル、平成トンネル(東北中央道; 日本最長の無料トンネル)
- 碓氷峠～国道18号
 - － 中山道(歩行)から、旧国道18号、碓氷バイパス、上信越道。並行する鉄道のアーチ橋(めがね橋)は素晴らしい(土木遺産)
- 親不知海岸～国道8号、断崖区間
 - － 波打ち際の歩行から、明治に断崖を切り開いた道路、大正には北陸本線トンネル(鉄道)、昭和になって国道8号トンネル、昭和後期には北陸自動車道トンネル、平成になって北陸新幹線トンネル



栗子隧道(山形県HPより)



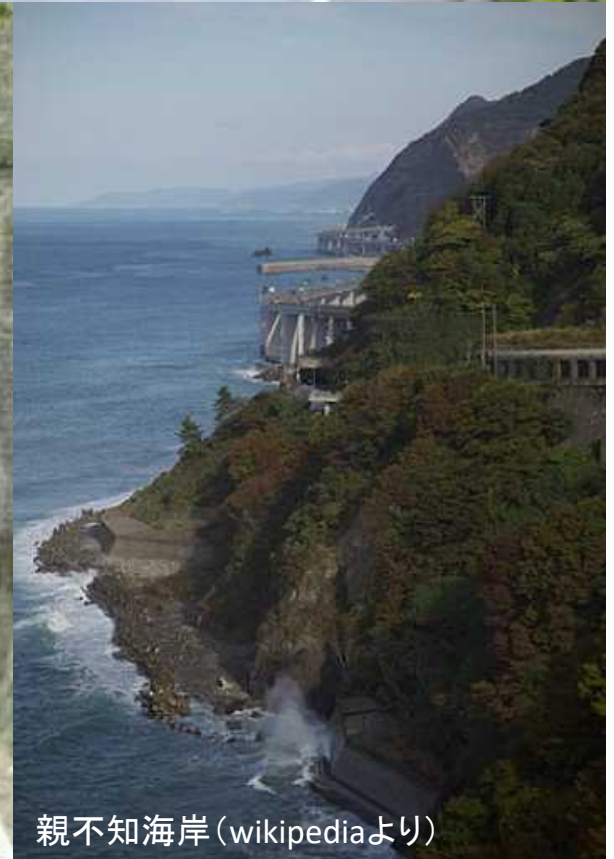
大正トンネル(中部地方整備局より)



めがね橋(観光ぐんまより)



明治トンネル(静岡市観光ナビより)



親不知海岸(wikipediaより)

路線が複数になることのメリット

- 仙岩峠の景色はとても素晴らしい
 - 速度を落として走行するのはサービス？
- 旧道を歩くのもよい
 - 仙岩峠：道路も変化してきた
 - 国見峠(歩行)から、馬車道を経て、昭和初期に仙岩道路が開通
 - 自動車で行けるも、険しいつづら折りの道(仙岩道路)
 - 昭和後期には、これらを回避した仙岩トンネル(道路)へ
 - 過去のルートは観光道路にもなる可能性
- 国道46号仙岩トンネルは昭和51年(50年前)に開通
 - 次のステップ？



出典:『今後推進すべきインフラプロジェクト』(JAPIC)より

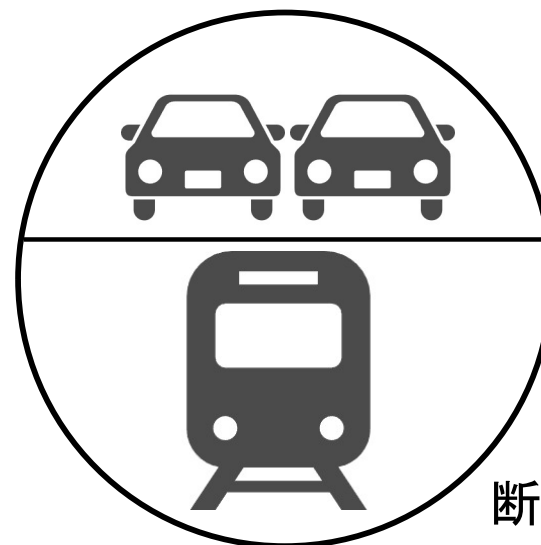
- 国道46号の仙岩道路を改築するならば、鉄道と同じ断面にすると、整備コストを縮減可能？
 - $A+B > C$ であれば、トンネル工事にかかる掘削量を少なくできる
 - 距離の長いトンネルでの鉄道・道路共用トンネル
 - 土木的な魅力



断面積A



断面積B



断面積C

- コストのみならず、線形の整合性、防災性、工事の容易性、維持管理など多方面からの検討

今後の整備促進にむけて

- 新仙岩トンネルの利用者は？
 - 秋田県への来訪者のみならず、秋田県民も利用
 - 県外からの来訪者に焦点をあてすぎていないか？
 - 観光パンフレット
 - 秋田県民も県外への移動の足として新幹線利用
 - 多くの街にいく、観光する、交流することで自分の地域を客観的にみれる
 - 海外旅行では、日本に帰国して、ホッとする(日本の良さを実感)
 - それが地元を良くするためのヒントとなる
 - 観光しているのに、何故か仕事と結びつけて考えることも
 - 出張においても同様
 - 目的地が偏りがちとなるため、他地域への出張は積極的に

- 秋田県民は観光していない？

- 新聞広告に掲載される旅行情報、パスポート取得率
- 秋田県では県内宿泊施設のキャンペーンを実施しているが、県民の県外観光への支援を！
- こうした取り組みによって、秋田県民の整備に対する機運も高まる
 - 自ら利用しているのだから、説得力ある意思表示となる

- 新トンネルは誰かが与えてくれるものではない

- 私たち自身が、その必要性を示し、利用し、価値を高めることで実現に近づく
- 実現に向け様々な観点から考えること重要
- 主役は秋田県民

おわりに

- 新仙岩トンネルにより、秋田新幹線は所要時間短縮のみならず、防災に関する大きなメリットを享受できる
- 秋田新幹線の進化によるメリットを最大限に享受するには、自らの利活用が重要
 - 県外観光により自らの地域を客観視できるよう
 - 来訪者のみならず、県民からの意思表示
- インフラがあるだけでは意味がない
 - 使うことで効果が出現
 - 使って、使って、さらに使って、使いこなす
 - 多くの利用が伴っているとき、整備へのアクセル踏まれる